

「水と私の町」

王寺町立王寺中学校 一年

榎屋 菜摘

今から二十五年ほど前、私の住んでいる奈良県の王寺町という町が台風で水害にありました。私の母はその当時、高校二年生だったと言っていました。私の住んでいる地区は、大和川と葛下川という二つの川が近くを流れています。八月のある夜、台風が接近するにつれ、風よりも大雨がふって、大和川があふれそうになったらしいです。何度か心配して川の水を見に行っていたら、そのうちにサイレンが鳴って、近くの公民館に避難したそうです。そして一夜をすごしているうちに、家の一階すべてが水につかってしまったそうです。その時の写真をスクラップブックにはいつているのを見せてもらいました。私の今、くつろいでいる部屋、弟が寝ている部屋など一階すべての部屋がほんとうに、水につかって

いました。すごくおどろいたのと、少し信じられない気持ちでした。水がひいた後またすぐもう一つの台風が来て、二度つかったそうです。そして水がひいた後がすぐ大変だったということでした。暑い夏だったので、いろんな臭いやゴミが出て、家の前の道は、ゴミの山で歩けないくらいになったらしいです。王寺駅も、水につかったらしくゴムボートに乗っている人もいるくらいだったそうです。今では、いろんなビルや銀行や病院ができてとても便利な町になりました。ほとんど新しい人達が引越してきていますので、水害のことなど忘れられていくようですが、母は今でも「大雨が降るとこわいなあ」と言っています。水害があつてしばらくは、大雨が降ると一階に置いてあるものを二階に

上げたそうです。今では、堤防も大きくなつて、安心ですが決して忘れてはいけない事だと思ひます。水は私達の生活にはなくてはならないですが、もし水不足になれば、農作物や飲料水にも大きな影響をもたらします。しかし反面、大雨で災害や水の事故も毎年夏になるとテレビなどのニュースで見ます。とても複雑な思ひです。雨水は私たちの生活の飲料水となつています。水道のじゃ口からは限りなく無限の水が出ると思ひがちですが、水害とは全く逆のかんばつになることも考えなるといひけません。今私たちにできることと言へば歯をみがく時に水を出しっぱなしにしないことや、かみを洗う時にシャワーを止めるなど小さな事かもしれないが一人一人が節水に気を付ける事で大きなものになると思ひます。私達の限りある資源は私達自身を守つていかなないとだめだと思ひます。